

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 20 年 2 月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙活動（図 2）

昭和 4 年火口の噴煙の高さは火口縁上概ね 50m 以下で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

・ 地震活動（図 2～3、表 1）

山頂部の剣ヶ峰東観測点で微小な地震が 1 回観測されたのみで、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 4～5）

GPS 連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められます。

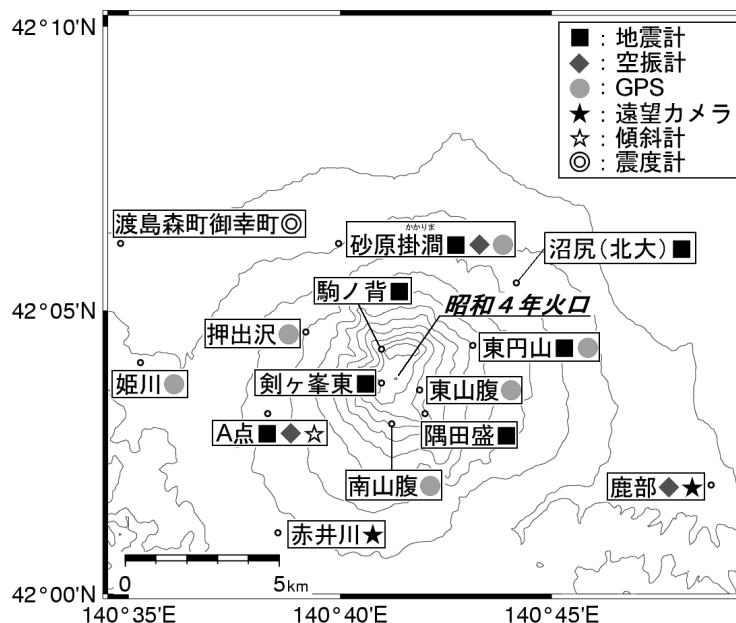


図 1 北海道駒ヶ岳 火山観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 3 月分）は平成 20 年 4 月 9 日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

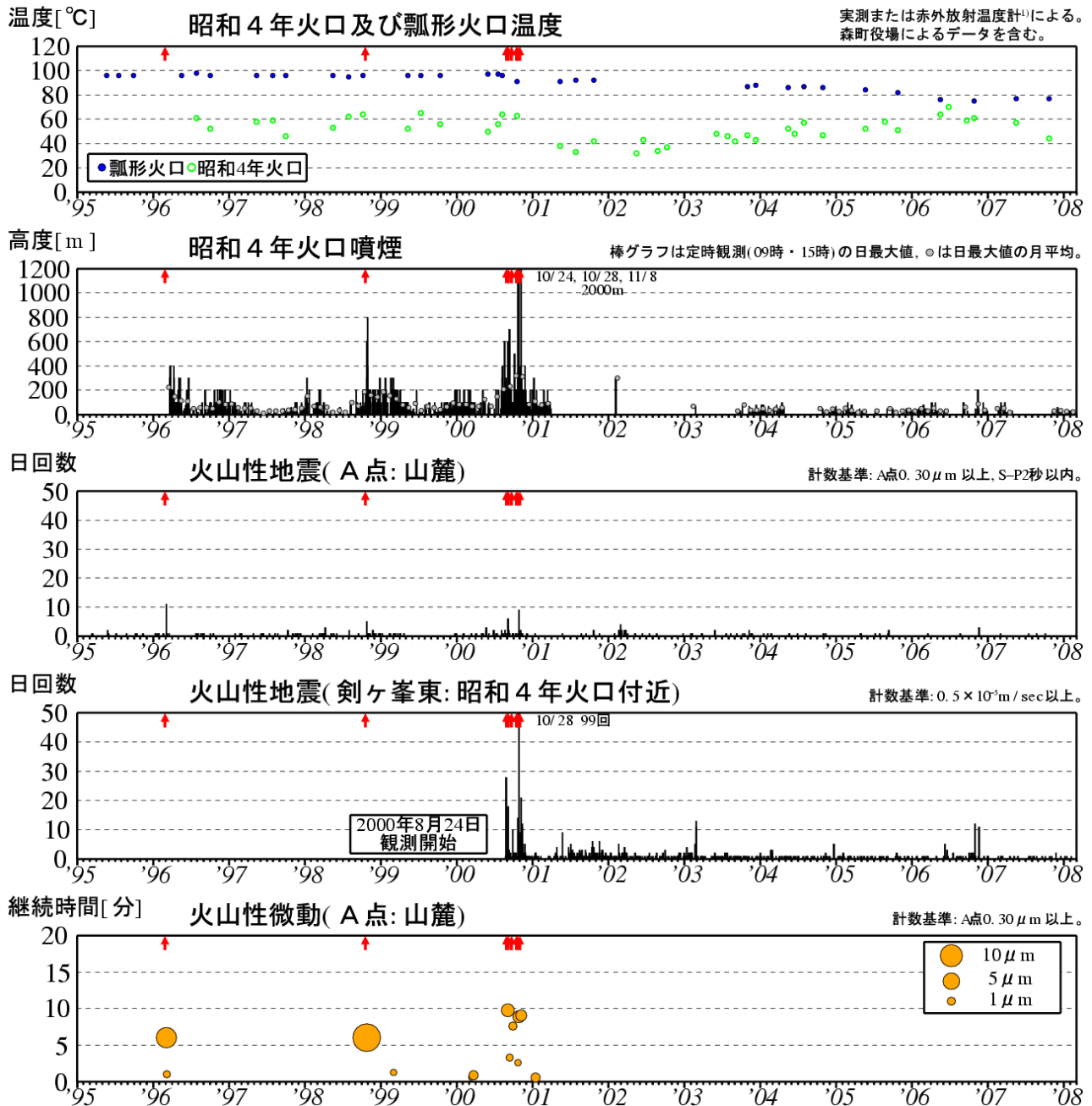


図 2※ 北海道駒ヶ岳 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2008 年 2 月）↑印は噴火

- ・ 昭和 4 年火口では 2003 年 9 月以降 10～50m 程度の噴気が時々観測されています。
- ・ 昭和 4 年火口の火口温度は、2002 年以降緩やかな上昇傾向が認められていましたが、2006 年秋頃からはほぼ横ばいの状況となり、2007 年 10 月の観測では温度の低下が見られます。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表 1 北海道駒ヶ岳 地震・微動の月回数（A 点：図 1 の A 点、剣ヶ峯東：図 1 の剣ヶ峯東）

2007～2008 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
A 点地震回数	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0
剣ヶ峯東地震回数	4	1	2	0	3	4	1	2	3	1	2	1
A 点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

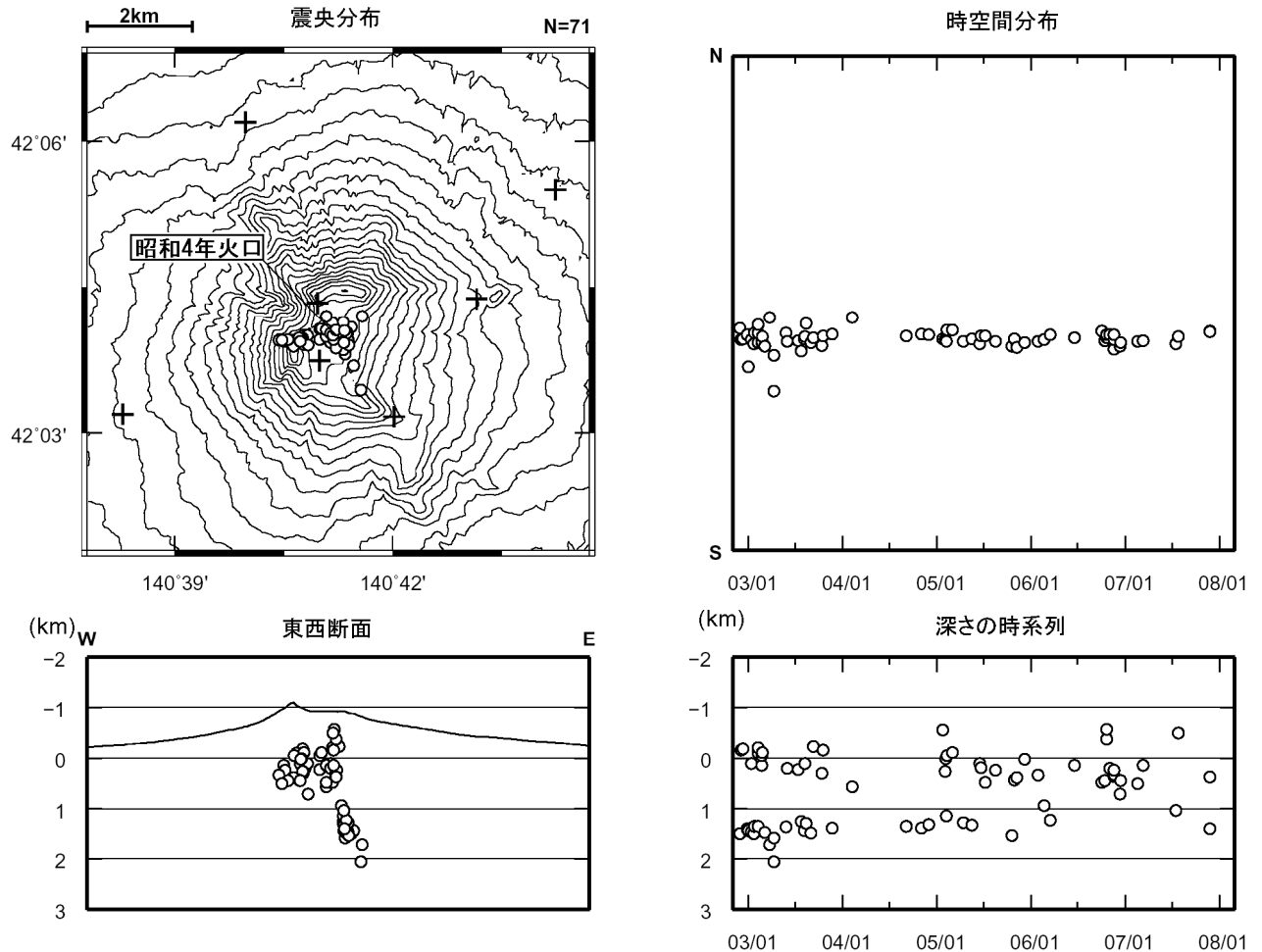


図 3※ 北海道駒ヶ岳 震源分布図（2002 年 11 月～2008 年 2 月、+は地震観測点）

○印は 2002 年 11 月～2008 年 1 月の震源

- ・ これまでに求まった震源は山頂火口原直下の浅い所（山頂から深さ 1～3 km 付近）に分布しています。今期間に震源の求まった地震はありませんでした。

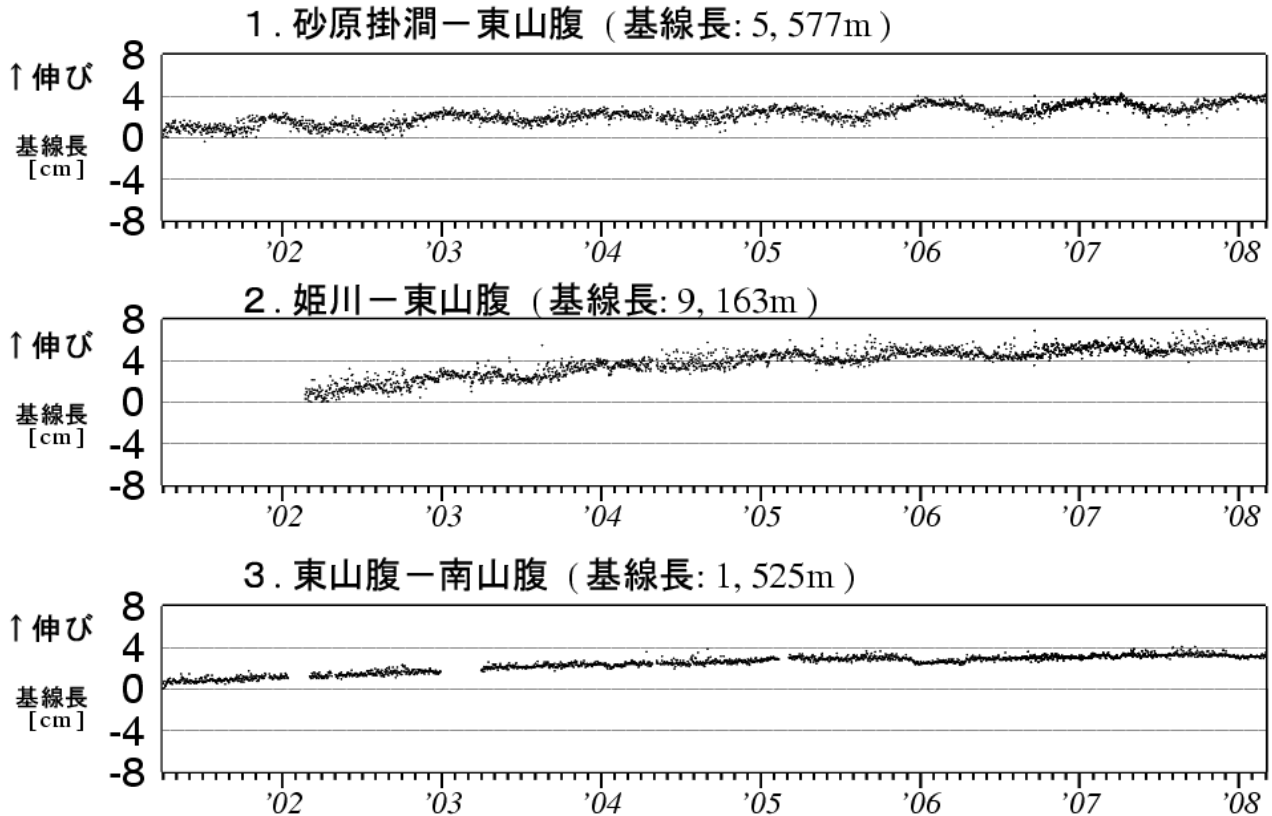


図 4 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 4 月～2008 年 2 月）

グラフの空白部分は欠測

・図 4 の 1～3 は、図 5 の GPS 基線①～③に対応しています。

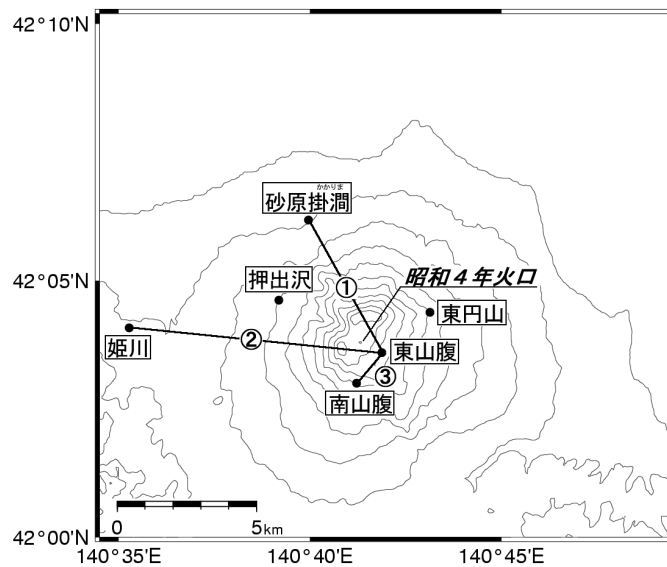


図 5 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測点配置図

・GPS 連続観測では季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められます。